

## 日本とシンガポールの植物と生き物の違いについて

福田 隆生

（はじめに）

私は今回、日本とシンガポールの植物と生き物の違いについて調べました。

理由はシンガポールの写真を調べても、都市部の写真しかなくシンガポールの自然について興味を持ったからです。また、赤道からの距離の違いによる環境の違いについても知りたいと思ったからです。

（事前調査）

インターネットを使った調査では以下のことがわかりました。

シンガポールの森林面積 2900 ヘクタール（国土面積に占める割合 21.18% 2022 年度）

日本の森林面積 2502 万ヘクタール（66% 2022 年度）

シンガポールの固有種 パンゴリン（センザンコウ） バンダミスジョアキム（蘭の花）

日本の固有種 哺乳類 50 種 鳥 16 種 爬虫類 60 種 両生類 63 種 魚 139 種など  
地理的な立地と変化が組み合わさって多くなっている。

シンガポールの気候 熱帯モンスーン気候 気温 26～30度 高温多湿

雨期（11 から 2 月）と乾季（3 から 10 月）がある。雨季はスコールが降ることがある。

日本の気候 北海道や東北地帯は亜寒帯気候。南西諸島は亜熱帯気候。モンスーンにより四季がある。

降水量が多い。

（シンガポールでの調査でわかったこと）

ホストファミリーの家の周りには背の高い木がたくさん生えていました。また野生のニワトリが生息していました。土質は日本と比べると湿り気が少なく、乾燥していました。

事前に調べたものは、3 から 10 月は乾季と書いてあったが、たくさん雨が降っていた。シンガポールは日本と比べると森林面積が日本の三分の一程度だったが、実際に行ってみるとそうは思えないほどたくさんの自然があると感じた。都市開発によりそのまの自然ではないようですが、公園や道路にたくさんの木が植えられていた。

写真1 ジャワハッカという鳥



写真2 野生のにわとり



（まとめ）

調査を終えて、四季がはっきりとしている日本がすごく特別な国だとわかった。また赤道に近い国の特徴を知ることもできた。特に日本との違いを感じたのは鳥に近づいても、逃げようとしなかった時で、日本のすぐ逃げる鳥とは違い、都会だからか人に慣れていると知った時だった。

（おわり）

今回シンガポールへの派遣に参加してみて、シンガポールの人々は初対面の人に対しても、すごくフレンドリーに接してくれるということを知ることができた。そして、私はその経験を活かして、自分もシンガポールの人々のように誰に対しても、フレンドリーに接することができる人になりたいです。また今回の派遣を通して、私は少し不安なことにもためらわずに挑戦することができるようになりました。バディの子と過ごした2週間は長いようで、すごく短いものでした。

（おまけ）

私は **Singapore is fine city** と書かれたキーホルダーを買いました。その時は知らなかったのですが、シンガポール教育省の語学学校の人が **fine** には二つ意味があって、一つはすばらしいという意味と、もう一つは罰金という意味があると話していて、おもしろいと思いました。もし、旅行に行く友達がいたら、チューインガムは持ち込めないし、公共交通機関では食べたり飲んだりできないと教えてあげたいです。

写真3



写真4

